

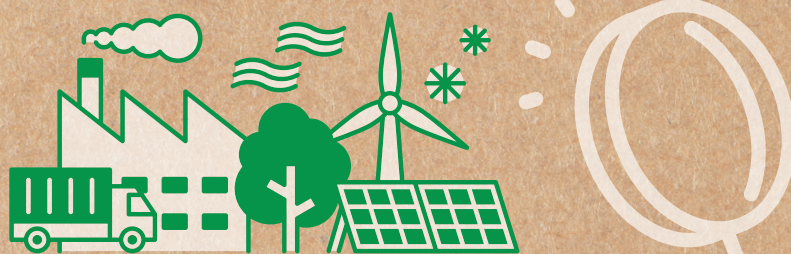
しがCO₂ネットゼロ
アンバサダー

2024
|
2025

SHIGA CO₂
NET ZERO
AMB.

次 世 代
リポーター
ムーブメント

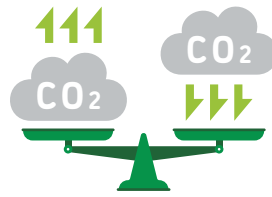
NEXT GENERATION
REPORTER
MOVEMENT



しがCO₂
ネットゼロ
ムーブメント

滋 賀 県

CO₂ ネット ゼロって？



CO₂などの温室効果ガスの人為的な排出を減らし、森林などの吸収源を確保することでCO₂の排出量と吸収量の均衡を図ること。

！このままCO₂が増えたと…

- ◎ 気温上昇、災害、生態系の変化、水・食料の不足、社会・経済への影響、健康への影響
- ◎ 地球や私たちの暮らしがピンチ！
- ◎ 琵琶湖にも危機が！？
- ◎ 気温上昇により琵琶湖の水の循環が止まり、湖底の酸素が足りずに魚が死んでしまう事象が起きている



🚩 県民・事業者等多様な主体と連携して取り組む「しがCO₂ネットゼロムーブメント」、次世代リポータームーブメント情報発信とは

滋賀県では、2050年までにCO₂排出量を実質ゼロにすることを目標に「しがCO₂ネットゼロムーブメント」を展開しています。そこで、次世代の力で情報発信を行う「次世代リポータームーブメント情報発信」として、滋賀県在住もしくは滋賀県内の大学に在学中の学生を中心とした若者をしがCO₂ネットゼロアンバサダーに任命。アンバサダーがリポーターとしてCO₂ネットゼロに取り組む県内の企業に取材に行き、SNSやゼロナビしがで発信する取り組みです。

活 動 内 容

STEP 1 キックオフ・リポーター能力向上研修

活動やしがCO₂ネットゼロムーブメントについてのガイダンスを受けました。また、リポーターとして活動するためにインタビューの仕方や記事の書き方などについての研修を受けながらアンバサダー同士で交流しました。

STEP 2 取材準備

参加者はA~Dチームに分かれ、チームごとに取材前にオンラインで打ち合わせを行いました。記事の構成やインタビュー内容について擦り合わせました。



STEP 3 取 材

滋賀県内の、CO₂ネットゼロに取り組んでいる5つの企業に取材に行きました。



STEP 4 記事制作

取材を元に各チームで文章や画像の作成を含めた記事制作を行いました。

STEP 1 キックオフ・リポーター能力研修

2024
8.15
@キラリエ草津

キックオフでは、滋賀県の担当者からプログラムの概要と「しがCO₂ネットゼロムーブメント」について説明がありました。また、リポーターとして活動する準備として研修を行いました。アイスブレイクでは、他己紹介を行い参加者同士で交流を深めました。

リポーター研修

取材の準備や心得、記事の書き方について研修を行いました。研修の一環として、「滋賀県に来たことがない人に向けた滋賀県の魅力を伝えるキャッチコピー」を考え、一人ずつプレゼンを実施。記事の見出しになるようなキャッチーな言葉選びやフレーズの作り方を学びました。



STEP 2 取材準備

全18名の参加者はA~Dの4チームに分かれ、チームごとに取材前にオンラインで打ち合わせを行いました。どのような記事を作成したいかの構想を元にインタビュー内容や当日のスケジュールについて話し合いました。

事前準備

チームごとの打ち合わせを行う前に、それぞれのインタビュー先について各自でリサーチを行いました。各企業がどのようなCO₂ネットゼロの取り組みをしているのかを知り、取材で詳しく聞きたいトピックスや見学させていただきたい場所を考えました。



STEP 3 取材

滋賀県内にある、CO₂ネットゼロに取り組んでいる5つの企業に取材に行きました。



取材先紹介

Aチーム

株式会社ピエクレックス

植物由来の新しい繊維「ピエクレックス」を開発しています。加工剤の必要がないため汚水が出ないぶん環境に良く、使用後に堆肥として再利用することができます。その堆肥でまた新たな植物を育てる繊維製品の循環インフラ「P-FACTS」を主導しています。

実際に繊維を触ったり、堆肥場の見学をしながら取材しました！

服を堆肥に変え、その堆肥でまた新たな植物を育てます。燃やしたり、埋めたりせずに、循環させていくことで環境に良いモノづくりが可能になります！

swipe →

「ピエクレックス」が目指す未来「P-FACTS」とは！？

swipe →

ピエクレックスって??
繊維が生み出す電気で抗菌

「ピエクレックス」とは、株式会社ピエクレックスが開発した植物由来の新しい繊維！普通に着ているだけで微量な電気を生み出します。

swipe →

静電気とは違うの？

swipe →

Bチーム

琵琶湖ホテル

「里山の食彩 プロジェクト」で、滋賀の食材を用いることで里山保全、CO₂削減に貢献しています。アメニティの持参を推奨し、必要な方には木製のひげそりやヘアブラシを渡すなど脱プラスチックに向けた取り組みをしています。

木製アメニティを実際に触り、触り心地に感動！宿泊客の快適さと環境配慮の両立は可能であると実感しました。

おいしく食べてCO₂削減

地産地消は食料自給率が上がるだけでなく、食材の輸送で排出されるCO₂の削減につながります。

さらに地元の自然の保全となり、新鮮な食材を食べられるというメリットも！

琵琶湖ホテルが取り組む「里山の食彩プロジェクト」

「食べることは守ること」を合言葉に2002年に活動を開始。お客様に滋賀の食材を楽しんでもらうことで里山の保全につなげる取り組みです。ホテル内にある畑でも実際に野菜を育てています。

必要な人には、素材にこだわったアメニティを必要な分だけお渡します

例えば、持ち手が樫(ぶな)の木のひげそり。あたたかな風合いで優しい心地とプラスチック削減を両立できます。樫の木は耐久性にも優れており、長く使うことができます。

脱プラスチックに向けて

プラスチックの大量生産によるCO₂排出量の増加やプラスチックごみによる環境汚染が問題となっている中、琵琶湖ホテルでは

- ・部屋にアメニティを置かず、お客様に持参してもらう
- ・必要の人に渡すアメニティの素材を変える

という取り組みを行い、2,219kgという大幅なプラスチック削減に成功しました(2022年)
(2019年度比較 対象:歯ブラシ、髭剃り、ヘアブラシ)

各記事の閲覧は
QRコードから



ZERONAVI_SHIGA

取材先紹介

Cチーム

株式会社水口テクノス

地域の声を聞き実現した、毎日資源ごみを捨てられる「ECOステーション」の運営や、家庭の生ごみを集めて堆肥化する「生ごみ環境エコロジーシステム」の運用をしています。堆肥にした後は、家庭菜園や種堆肥として利用され、無駄なく循環していきます。

生ごみを堆肥にするプロセスを実際に見学しました。堆肥発酵は温度管理が重要であると肌で感じる事ができました。

ECOステーションとは？

毎日資源ごみを捨てられる「ゴミ回収施設」。「これ捨てられる？」というものは常駐しているスタッフに聞くことができます！株式会社水口テクノスに管理されています。



ゴミを適切に捨てる リサイクル



〇〇〇の正体は...

生ごみ

だったんです！



家庭で出た生ごみを
集め加工することで
作られた堆肥を使って
畑が育てられているのです！！
もちろん
他の野菜を家庭菜園することも！



堆肥ができるまでの過程

家庭で生ごみを集める



Dチーム

山室木材株式会社

「木とともにいらないをいかす」を信念に、廃棄木材から自家バイオマス発電を行い、地域に還元しています。木製の温室で、廃材を燃料にしたバイオマスボイラーでマンゴーやいちごなどの栽培を行い、できた果物は同グループのカフェで地産地消されています。

温室栽培で育った果物が食べられるカフェで実際にケーキを食べました。地産地消のスイーツを食べて、取材の合間の束の間の休憩タイムです。

地域の廃棄木材 発電の原料は 廃棄パレットと

廃棄パレットは
チップになり、
バイオマス発電に
利用されます。



木材チップは マンゴーなどの 自家栽培にも！？

ヤマムログループの
カフェDrageeでは
この木道の温室で
作られたマンゴーを
用いたパフェなどが
販売されています。



廃材からできた
木材チップを燃料に
温室を暖めているんです！

ここで使われている
フルーツ、
実は木を支えられて
作られています。

山室木材工業株式会社では、
木道の温室でマンゴーやいちご
などを栽培しています。
木材を使用することで従来の鉄骨ハウス
よりも低コストで建てられるうえに、
敷地の広さに応じて温室の大きさを
調節できるなどのメリットがあります。



なんと温室だけでなく、温室の熱源にも
木材を使用しています。
木質バイオマスボイラーで温室を
温める際に廃材の燃料チップを
使用することで、環境に配慮した
熱源を確保しています。

温室の熱源にも
木を使用？！



各記事の閲覧は
QRコードから



ZERONAVI_SHIGA

取材先紹介

ワボウ電子株式会社

プリント基板製造等で培った技術力を活かし、近江海老を養殖しています。廃材でバイオマスボイラーを稼働して水槽の温度を維持し、また海ぶどうを同時に養殖することで海老が出した窒素を海ぶどうが吸収、酸素へと変換しています。

おうみ海老ステーションで近江海老と海ぶどうを実食！高い技術力で、この美味しさが実現されていると実感しました。

滋賀県で“環境にやさしい養殖”を研究中...どうやって？

養殖・栽培システムの概要図
井戸水
バイオマスボイラー
養殖槽
ろ過槽
ポンプ
バイオマスボイラー
ハウス内水槽

海老が出した窒素を、海ぶどうが吸収し、酸素へと戻す役割を担うシステムを目指し、研究されています。

海老を養殖する水槽の水も環境にやさしい！？

燃料に廃材を使ってバイオマスボイラーを稼働し、伊吹山の地下水を温めて、養殖に適した温度にしています

滋賀県産のサステナブルな食材「近江海老」と「海ぶどう」はどう作られているの？

燃料に廃材を使ってバイオマスボイラーを稼働し、伊吹山の地下水を温めて、養殖に適した温度にしています。

バイオマスボイラー

養殖・栽培システム

海老が出した窒素を海ぶどうが吸収し、酸素へと戻す役割を担うシステムを目指し、研究されています。

長浜駅から徒歩で約10分！

おうみ海老ステーション
ワボウ電子株式会社で養殖されている近江海老と近江海ぶどうをこちらの直売所で購入できます！

STEP 4 記事制作

取材をもとに、各チームで文章を考えたり、SNS投稿用の画像を制作しました。研修で学んだことを活かしながら、情報を整理し、伝えたいことの優先順位をつけて、徐々に形にしていきました。情報発信や記事制作が初めてのアンバサダーも、経験者がフォローしながら、チームで協力して進めました。



① しがCO₂ネットゼロアンバサダーとして活動しての感想



企業の取り組みから学んだ 経営と脱炭素のバランス

活動を通して、企業の方々が実際にどのように環境問題に取り組んでいるのかを学ぶことができました。経営と脱炭素の両立は難しいのではないかと想像していましたが、必ずしもそうではないこと、また逆に予想以上に難しい課題があることも知り、新たな視点を得る貴重な機会となりました。しがCO₂ネットゼロアンバサダーとして活動できたことを嬉しく思います。

温暖化対策を「楽しく」学び、 実践するきっかけに！

この活動に参加したことは、私にとって非常に貴重な経験となりました！ 活動を通じて、環境やCO₂削減について自分自身の知識がまだまだ足りないことを痛感しました…。私は食に関するCO₂削減に取り組む機会をいただき、食の選び方や生産・消費の仕方がCO₂削減に大きく影響することを学びました。また、温暖化対策は決して堅苦しいものではなく、誰でも楽しみながら取り組めるものだ実感しました！ 私たちの記事を通じて、少しでも多くの方がこのような取り組みに興味を持ち、「できることから始めてみよう」と思うきっかけになれば嬉しいです。今後もこの学びを活かし、日常生活の中で意識していこうと思います！



滋賀県の企業への 取り組みを知り、発信する大切さ

滋賀県にある大学に通いながら、滋賀県の企業が行っている環境に良い取り組みについて全く知らないな、この機会に知りたいなと思ったのが参加のきっかけでした。実際に企業を訪問させていただき、興味深い取り組みについて、また、その取り組みをする上でこういった想いでされているのかを知ること



ができ、とても良い機会だったと感じています。また、その想いをどのように発信すれば、同世代の方々に興味を持ってもらえるかをチームで考えて記事にする作業は想像以上に大変でした。僕たちの記事で滋賀での取り組みに興味を持ってくれる人がいたらとてもうれしいです。

その他
参加者の
皆さんの声

各記事の閲覧は
QRコードから



ZERONAVI_SHIGA



大学で環境について学ぶ中で、企業が実際にどのような取り組みを行なっているのかを知る機会が多くないため、非常に貴重な経験になりました。特に、環境のためにさまざまな挑戦を続けている姿勢がとても印象的でした。



しがCO₂ネットゼロアンバサダーの活動を通じて、初めてCO₂ネットゼロについて学びました。これまで以上に環境への取り組みに面白さを感じるようになったので、もっと多くの人にこうした取り組みが広がって欲しいと思いました！



取材を通じて、地域や社会、環境に対して温かい思いを持ちながら働いている方々がいることを知りました。地元である滋賀県への愛着がさらに深まりました！



取材が終わった後には、座談会も実施しました。取材を通じて感じたことや身近なCO₂ネットゼロについて大学生でトーク。

最後に

次世代リポーター
ムーブメント
の意義



次世代である大学生が
企業の取り組みを「見える化」、
発信することで、県民や
事業者幅広く情報を届け、
CO₂ネットゼロを「自分ごと化」
「行動変容」につなげていきます。

作成した記事の閲覧は各媒体から

しがCO₂ネット
ゼロムーブメント
Instagram



ZERONAVI_SHIGA

ゼロナビしが



しがCO₂
ネットゼロ
ムーブメント

滋賀県総合企画部
CO₂ネットゼロ推進課

Tel: 077-528-3494

E-mail: cg01@pref.shiga.lg.jp